

## 特集：研究開発人材育成プログラム

### 研究開発人材育成の推進

インキュベーション委員会 委員長  
玉田 真人



近年、企業・組織の技術開発力強化が重要課題とされ、研究開発者の人材育成のニーズが高まっています。

インキュベーション委員会では研究開発人材が主体的に参画し自由に議論することによって新たなアイデアや技術開発の種を生み育てる場を提供するため、コラボレーションミーティング、アイデアコンペ、研究開発人材育成プログラムの活動を推進しています。

多くの企業・組織で独自に研究開発人材の育成に取り組まれています。異業種の人材が参加し、交流する場を設けることで、企業・組織内の教育だけでは得られない新たな刺激や気付きを得ることができ、研究開発の活性化につながるものと期待しています。

「研究開発人材育成プログラム」は研究開発チームマネージャーへのステップアップを図る場として年間2回のプログラムを実施しています。プログラムは5日間のコースで、講義とグループワークで構成しています。講義では「私の研究

開発履歴書」と称して、各業界の研究者の先輩方からご自身の研究開発への取り組みを振り返っていただき、貴重な経験や教訓を伝えていただいています。さらに、国土交通省からの政策ビジョン、MOT(技術経営)及びマーケティング(行動観察)の講義、村上会長の特別講義が加わったプログラムとなっています。

グループワークは5～6人程度のメンバーで講師より示された「課題」に対してディスカッションした後、グループの代表者が発表し、それに対して講師がコメントするという流れですが、他のグループからも積極的に質問や意見が飛ぶなど、メンバー相互で活発な意見交換が行われています。参加者から「大変刺激になり、人脈の形成にもつながった」との評価もいただいています。

また、5日間コースのカリキュラムの中でも受講者からの評価が高かった「MOT」に特化した半日コースのプログラムを別途実施しており、これも参加者から好評をいただいています。

研究開発人材育成プログラムは平成30年度も2回の開催を予定しています。参加者のご意見を参考に、プログラムの内容や運用について改善を重ね、一層の充実を図っていきたいと考えております。会員の皆さまの今後の研究開発活動に活用していただければ幸いです。

### 研究開発人材育成プログラム(平成30年度 予定)

日程	13:00～14:30	14:40～15:45	15:45～16:50	16:50～17:30
1日目	【開会挨拶】 インキュベーション委員会委員長 【プログラムの説明】 【受講者自己紹介】	私の研究開発履歴書 藤井 俊二氏 [BER・大成建設(株)OB]	グループワーク 講演内容・講師提出課題討 議、解決策・質問・意見等 纏め	各グループ発表・質疑応答  17:30～19:00 懇親会
2日目	【技術マネジメントMOTの紹介】 出川 通氏 (株)テクノ・インテグレーション)	私の研究開発履歴書 佐久間 弘氏 [旭化成ホームズ(株)]	グループワーク 講演内容・講師提出課題討 議、解決策・質問・意見等 纏め	各グループ発表・質疑応答
3日目	【会長特別講義】 村上 周三氏 (東京大学名誉教授・CBRD会長)	私の研究開発履歴書 飯田 毅氏 [飯田技術士事務所・住友金属工業(株) OB・元大阪産業大学教授]	グループワーク 講演内容・講師提出課題討 議、解決策・質問・意見等 纏め	各グループ発表・質疑応答
4日目	【マーケティング】 講師未定 (東京ガス(株))	私の研究開発履歴書 安藤 達夫氏 [東京大学学術支援職員・ 三菱樹脂(株)OB]	グループワーク 講演内容・講師提出課題討 議、解決策・質問・意見等 纏め	各グループ発表・質疑応答
5日目	【特別講演】 「住宅・建築分野の政策課題と対応の方向性」 中澤 篤志氏 (国土交通省)	受講者研修レポート発表会 講評 インキュベーション委員会人材育成プログラム 小委員会主査		17:30～19:00 懇親会

## ◆概要

研究開発チームマネージャーへのステップアップとして、市場の把握、研究課題の創出、技術開発ロードマップ、社内外ネットワーク、組織運営と人材育成などを学んでいただくとともに、様々な業種の研修参加者との交流と人脈形成を、参加者を5～6人程度のチームに分けて、毎回グループワークを実施する中で実践してもらう。スタートから5年が経過し、コンソーシアムを代表する活動となっている。5年間の受講者総数は143名で、受講者アンケート「今回の人材育成プログラムは参加者のニーズに合っていたか？」の回答では、受講者の94%が「合っていた」と回答し、高い評価を得ている。

## ◆気付きと人的ネットワークの形成

講師の話聞いた後に講師から出される課題について、グループワークを行い、その結果をまとめてグループごとに発表の場を設けている。グループワークの中で、他社(他業種)の考え方にふれ、新たな気づきが生まれ、それを自分の研究開発活動に生かせることが狙いとなっている。



グループワーク

5回の開催の初回と最終回に懇親会を行い、受講者同士の懇親を深め、人的ネットワーク形成をはかっている。研修プログラム終了後も個別に連絡を取り合い、業務にいかしているようだ。今後の研究開発において他社とのコラボレーションが重要になる中で、益々必要となる活動と考える。



懇親会

## ◆次年度計画

- ・定員：15名(1回の研修プログラム)×2回 合計30名
- ・参加費：無料
- ・スケジュール：第1回 平成30年6月～7月  
第2回 平成30年9月～11月
- ・研究会場：晴海トリトンスクエアZ棟4階フォーラム室
- ・研究時間：13:00～17:30
- ・募集時期：平成30年3月中旬予定

## 受講者の声

住友林業株式会社  
住宅事業本部 技術商品開発部  
マネージャー 護田 佳子



平成29年度のプログラムに参加し、研究開発やチームマネジメントについて学ばせていただきました。人気のプログラムと聞いていたとおり、5回の講座には記憶に刻まれた「言葉」や「気づき」が多くあり、参加者15名のためだけの先生方のご講義は本当に贅沢で充実した時間でした。少人数制により先生方との距離感が短く感じられたからでしょうか、「具体的な開発手法」や時には「失敗について」など、普段はお聞きしづらい深い質問も多数あがっていました。

講義後のグループワークはいつも盛り上がり、自然と参加者同士の交流ができました。異なる職種の参加者が同じ課題に向かうことで企業を飛び越えた人脈形成を実現する仕組みは、まさにこのプログラムの特長のひとつだと思います。

参加者の多くが企業のミドルマネジメント層でした。経験を積んだうえに更なる専門知識、リーダーシップ、調整力など多様な能力を求められる世代で、迷いや悩みに一同が共感することが多々ありました。変化の激しいこの時代、このタイミングで本プログラムに参加させていただけたことに、深く感謝いたしております。最後になりましたが、先生方、プログラムを作成しこの場をご提供くださったCBRDの方々、同志とも言える参加メンバーの皆様、この場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。

## 受講者の声

株式会社竹中工務店 技術研究所  
高度空間制御部門 電磁・振動環境グループ  
グループ長 井上 竜太



ゼネコンの研究開発を担う技術研究所のチームリーダーとして2年目を迎え、新しい技術を創り出さなければならない、されど技術力だけでは成功できない、そんな悩みを抱えていたところ、研究開発人材育成プログラムへ参加する機会を得ました。

プログラム「私の研究開発履歴書」では、様々な分野で活躍されている講師の方々から、重圧や葛藤を感じながらも挑戦、妥協、失敗を経て様々な局面を乗り越えてきたという話をうかがいました。生々しい苦労、工夫を知る前までは、年輩の方が語る成功談に対して「高度経済成長期やバブル期の話でしょ」と正面から向き合うことができませんでした。しかし今回、半日×5回という時間をかけじっくりと話を聴くことで、成功談の裏側にある多様な物語を知ることができました。そこには、今の時代で成功する上でも共通して必要だと思われる「コト」や「ところ」があり、時代を言い訳にして思考停止に陥ってはいけないということに気付かされました。

講演後のグループワークや懇親会でも、様々な企業から集った受講者との話し合いの中で、背景にある企業文化、立場や視点の違いを存分に楽しみました。

これからの先の見えない時代に、不安ながらもリーダーやマネージャーを務めていく上で必要となる勇気やワクワク感が得られる場を提供いただいたコンソーシアムや受講者の皆様に感謝申し上げます。

### 【1】コンソ・プラザ

先端分野の動向等会員にとって興味ある有益なテーマ、トピックスに関する情報の共有や交換の場を設け、会員の交流を促進し研究会の発足等に繋げることを狙いとして開催した。イベントの年間平準化・2か月前募集開始を図り、出席人数/参加募集人数を参加率として、一定の参加率の維持を図った。

#### ①一般講演会

会員への情報提供の一環として、タイムリーなテーマと講師を選定し4回開催した。具体的には、「イノベーション・マネジメント ― いかにしてプロセス・組織をデザインし稼働させるのか?」、「大震災を前に私たちの実力を考える」、シンポジウム「建築基礎・地盤に関する研究開発の推進をめざして」、及び「都市木造の未来～木造の防耐火性能を科学する」の4回であり、参加者は延べ379名で、参加率は102%であった。

#### ②建築研究所による講演会

国立研究開発法人建築研究所の建築研究報告等の講演会を報告書等の発表に合わせて4回開催した。具体的には、「新潟県糸魚川市における大規模火災に関する調査報告」、「住宅の省エネ性能の評価プログラムの開発と評価の今後について」、「2016年熊本地震において益城町中心部の地盤特性が強震動に与えた影響」、及び「建築確認審査におけるBIM応用の現状と展望」の4回であり、参加者は延べ117名で、参加率は73%であった。

#### ③見学会

話題性のある施設を選定し4回開催した。具体的には、「積水ハウス株式会社エコファーストパーク」、「大阪ガス株式会社NEXT21」、「日本板硝子株式会社千葉事業所(ガラス工場)」、及び「国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター」の4回であり、参加者は延べ70名で、参加率は88%であった。



### 【2】分野・業種連携人材育成事業

平成29年度は平成28年度同様、「研究開発人材育成プログラム」の5日間コースを2回、32名の受講者の参加により実施した。プログラムの内容は、先輩研究者による講義「私の研究開発履歴書」、村上会長特別講義、国のビジョン、MOTの紹介及びマーケティング(行動観察)の講義とグループワーク等を行なった。いずれも受講者の評価も高く、好評であった。

また、平成28年度に続き、研究開発人材育成プログラムの2本柱として、MOT半日コースを40名の受講者の参加により実施し、受講者の評価も高く、好評であった。

### 【3】若手技術者交流会

若手技術者交流会は、対外的な活動の機会が少ない若手技術者のために、異分野の研究仲間や情報源を提供することで、

研究活動の知的創造を活性化することを狙いとしている。平成29年度(第9回)は20名の参加があり5会場で開催した。活動は2チーム制として、各回でチームリーダー他を



選定し、施設見学とフリーディスカッションを通じて交流を図った。平成28年度に続き、関西地区(奈良県・兵庫県)での開催(1泊2日)を実施し、内容の濃い交流会となった。

### 【4】コラボレーション・ミーティング

研究会活動への展開の推進、企業の研究開発に対する支援として、会員企業が現在進めている研究開発の現状及び将来の課題について他の会員企業との間で意見交換するコラボレーション・ミーティングを、国立研究開発法人建築研究所のリードの下、平成29年度は、建築生産分野で2回実施した。研究会移行準備中である。



### 【5】研究会

研究会については、継続14テーマに新規11テーマを加えた計25テーマを実施した。新規テーマの内6テーマがアイデアコンペから成立した研究会、1テーマがコラボレーション・ミーティングから成立した研究会、他の4テーマが会員からの提案で成立した研究会であり、その成立過程や研究内容が多岐に渡り、研究活動が活性化した。

### 【6】研究助成制度

研究助成制度は、研究推進活動の一環として、社会的ニーズに対応した会員間の研究の一層の推進を図ることを目的に、「建築内装用サンドイッチパネルの中規模火災試験方法：JIS A1320に基づく評価基準案および技術開発に関する研究」、「高齢者の生活と住まいのデザイン」、「軽量鉄骨下地乾式間仕切り壁の地震時損傷抑制に関する研究」、「アジア地域における住宅供給事業の市場開拓に関する調査研究」の4件を採択し助成を行った。

### 【7】JIS原案作成対応

平成27年1月に「JIS A1310-2015：建築ファサードの燃えひろがり試験方法」が制定されたが、より実用的な内容にするため、平成27年度に継続研究として「建築ファサードの燃えひろがり抑制に係る評価基準案および技術開発に関する研究会」で実験及び検討を行った。研究成果として、加熱強度に関する明確な指針等が確立できたことから既存JIS本文の改正として平成28年11月に一般社団法人日本規格協会の公募制度に応募し、平成29年3月24日付で採択された、「JIS A1310 建築ファサードの燃えひろがり試験方法の改正」について、平成29年度JIS原案作成委員会を設け、平成30年3月にJIS原案を提出した。

## 功 勞 賞 授 賞 式

平成27年度に制定された表彰制度規程に基づき、コンソーシアムの委員会活動にご尽力をいただくとともに、コンソーシアムの活性化に多大なご貢献をされた個人の中から功労者を選出し、連絡担当者会議の場で表彰することになりました。

平成29年度の表彰者は下記3名の皆様で3月14日のコンソーシアム連絡担当者会議の場で表彰されました。



植田 俊克様  
新菱冷熱工業(株)



藤井 俊二様  
元 大成建設(株)



山崎 雄介様  
元 清水建設(株)



## 2017年度 建築・住宅技術 アイデアコンペ(第15回)

2017年度のアイデアコンペに、10件の応募があり、平成30年1月29日の1次審査会(査読結果審議他)及び同2月23日の2次審査会(ヒアリング他)を経て、最優秀賞1件、優秀賞4件が選定されました。

### 【最優秀賞】

- ・防災地下シェルターの早期普及に関する研究—強靱な防災社会を実現する建築基礎・地盤技術—  
南野 貴洋(大和ハウス工業(株))、他2名

### 【優 秀 賞】

- ・働き方改革で「あいまい」となる職場・住空間に関する研究会  
内田 健一(積水ハウス(株))
- ・建築・住宅が長く活用されるために  
～建築文化と技術のコラボレーション～  
藤井 俊二(学会会員)、他1名
- ・空間知能化による高齢者の生活の豊かさのサポート  
渡邊 朗子(東京電機大学)、他1名
- ・小規模建築物における地盤判定品質向上と汎用性を  
両立した地盤調査技術の開発  
二川 和貴(積水化学工業(株))



## 新 会 員 の 紹 介

### 準 会 員

- ・公益財団法人 日本住宅・木材技術センター  
代表者：古久保 英嗣  
所在地：東京都江東区新砂3丁目4番2号

## CBRD News Letter 33号

発行日：2018年3月30日  
編 集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会  
発 行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

## CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階  
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022  
E-mail：conso@conso.jp (代表) Home Page：http://www.conso.jp/